

## 第2回気象庁モデルフォーラムのお知らせ

気象庁では、モデル開発に関する定期的な技術交流の場として、昨年に引き続き気象庁モデルフォーラムを企画しました。関心のある方はふるってご参加下さい。

**日時**：2001年5月10日（木）18時00分～20時00分

**場所**：東京大学山上会館（東京都文京区本郷）

**話題**：

- 1 気象庁の新しい数値予報システム（気象庁）
- 2 気象庁モデルを使った研究について（大学関係

者）

- 3 長期間にわたる高精度客観解析について（気象庁）

- 4 その他

**問い合わせ先**：

気象庁予報部数値予報課

（気象庁モデル技術開発推進本部事務局）後藤 進

電話：03-3212-8341（内線3305）

E-mail：s-goto@met.kishou.go.jp

## 極域・寒冷域研究連絡会のご案内

極域・寒冷域研究連絡会より、2001年春季大会（東京）での開催内容のご案内を致します。

**日時**：2001年5月10日（木）17：30～2時間程度

**場所**：東京大学理学部旧1号館166号室

**話題**：

1. 南極観測報告

第41次越冬隊報告

「ドロップゾンデによる大陸上の緯度断面観測」

和田 誠（国立極地研究所）

第42次夏隊報告

「昭和基地における MPL, Sky-Radiometer 観測」

塩原匡貴（国立極地研究所）

2. オホーツク海観測プロジェクト—夏と冬の気団変質—

「1998年～2001年に行われた観測から得られた新知見」

立花義裕（東海大学文明研究所/地球フロンティア研究システム国際北極研究センター）

「流跡線法による海水域の海面熱フラックスの見積もり」

岩本勉之（北海道大学低温科学研究所）

「熱収支法による海水域の海面熱フラックスの見積もり」

小野 純（東海大学文明研究所）

「海水上における気団変質の航空機観測」

猪上 純（北海道大学低温科学研究所）

前半はこの春に南極観測より戻られた方々より、得られた観測の速報や最新の成果について、南極の自然や昭和基地の越冬風景の紹介を交えながら報告していただきます。

後半はオホーツク海観測特集です。最近まで未知の海域のひとつであったオホーツク海でも、ここ数年北海道大学低温科学研究所及び米露両国の関係機関を中心として本格的な観測が実施されるようになり、大気—海水—海洋結合系の素過程が徐々に明らかにされつつあります。今回は、観測が実施された冬季及び夏季の大気—海洋間の熱収支及びそれに伴う気団変質過程について、最新の研究成果を報告していただきます。

**代表**：

木村龍治（東京大学海洋研究所）

**世話人**：

平沢尚彦（国立極地研究所）

中村 尚（東京大学理学部）

浮田基郎（米国航空宇宙局）

高田久美子（地球フロンティア研究システム）

阿部彩子（東京大学気候システム研究センター）

佐藤 薫（国立極地研究所）

本田明治（地球フロンティア研究システム）

**問い合わせ先**：

国立極地研究所 平沢尚彦

TEL：03-3962-5904 FAX：03-3962-5704

E-mail：hira@nipr.ac.jp